

「防災の日」に想う②

1923（大正12）年9月1日午前11時58分に発生した関東大震災から99年の歳月が経過し、来年でちょうど100年となります。

1年が過ぎていく中で様々な出来事があります。その中には、多くの人々が心に刻む日があると思います。例えば、1月17日、3月11日、9月1日などは、地震の恐ろしさをまざまざと思い起こさせる日ではないでしょうか。

過去100年の震災の歴史の中でも、1923（大正12）年9月1日の関東大震災、1995（平成7）年1月17日の阪神淡路大震災（兵庫県南部地震）及び2011（平成23）年3月11日の東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）は、とりわけ被害が甚大でした。

これら3つの大震災を調べ、まとめてみました。

	関東大震災	阪神淡路大震災	東日本大震災
発生時刻	午前11時58分	午前5時46分	午後2時46分
地震規模	マグニチュード7.9	マグニチュード7.3（※）	マグニチュード9.0
最大震度	震度7	震度7	震度7
死者・不明者	推定約105,000人	6,437人(平成17年12月22日時点)	22,312人(令和4年3月1日時点)
主な災害状況	火災・家屋の倒壊	家屋の倒壊・火災	大津波

○参考文献：内閣府防災情報（※）平成13年4月23日の「気象庁マグニチュード検討委員会」結果により7.2から修正。

地震の恐ろしいところは、いつ、どこで、どれくらいの規模で起こるか、前もって明確にわからないことです。そして、これらの要因が被害の大きさを決定づけると言っても過言ではありません。

3つの大震災を発生時刻に絞って比較します。関東大震災は、ちょうど昼時に発生しました。阪神淡路大震災は、冬の早朝、多くの人はまだ起床前を襲われました。東日本大震災の発生時刻は干潮に近い時間帯だったとのこと。歴史や過去を振り返るとき、「もしも」や「仮に」は禁句かもしれません。しかし、それでも考えてしまうことがあります。その他の要因（発生場所・地震規模等）については、門外漢ゆえ軽々にふれることを差し控えたいと思います。

ところで、昨年9月の校長室だよりで触れましたように、私は2004（平成16）年の中越地震に遭いました。またある年、神戸市に位置する「人と防災未来センター」において、阪神淡路大震災を映像や音響等で擬似的に体感しました。こうした経験等も踏まえて今思うことは次のようなことです。地震は人知の及ばないところがありますので、常に「備えあれば憂いなし」とばかりは言えません。しかし、それでも備えがあるのとないのとでは、被害を増やしもし、また減らしもするということです。

『論語』の「温故知新（故きを温ね新しきを知る）」の如く、過去の災害の歴史に学び、教訓として現代に生かしていくことが肝要です。何よりも、こうした災害の歴史を決して風化させてはならないと思うのです。